

1 基礎知識

私たちの住んでいる北海道には、エキノкокクス症という他の都府県ではあまり見られない病気があります。この病気はエキノкокクスという名前の寄生虫が主に肝臓に寄生しておこる病気で、道内では毎年20名程度の患者が見つかっています。

エキノкокクス症を予防するために、正しい知識を身につけましょう。

2 感染経路

私たち人間は、虫卵に汚染された野菜、山菜や沢水を直接口にしたり、虫卵に汚染された手指を介して感染し、野ネズミと同様にエキノкокクスの幼虫が肝臓に寄生します。

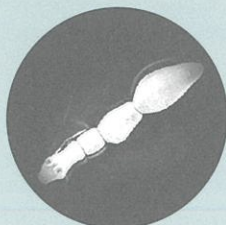
人から人に感染したり、野ネズミから人に感染することはありません。

3 症状

人にエキノкокクスが感染しても、すぐには自覚症状が現れません。無症状のまま見つかる人もいますが、数年から10数年の潜伏期間を経て、上腹部の不快感や膨満感が出現し、しだいに肝機能障害に伴う疲れやすさや黄疸等の症状が現れ、放っておくと病巣が転移し、命にかかわることもあります。



4 エキノкокクス



成虫

体長3mmほどの細長く白い虫です。



卵

直径0.03mmの球形で肉眼では見えません。



幼虫

野ネズミの肝臓に寄生した幼虫です。袋のような形をしています。

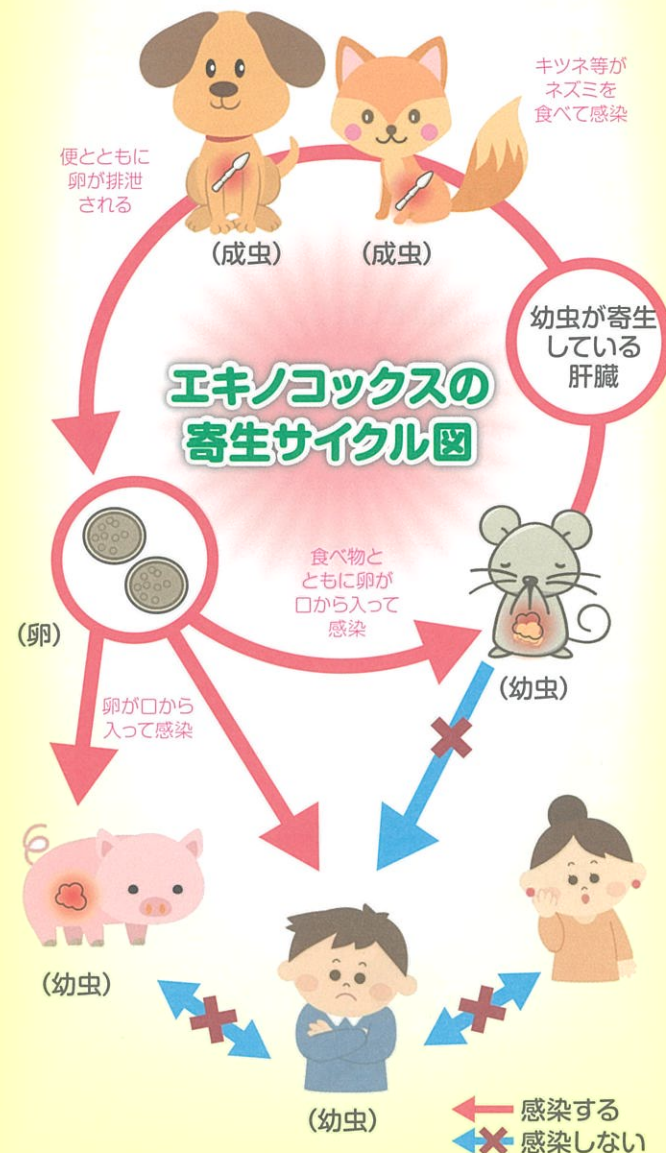
5 寄生のサイクル

エキノкокクスは、自然界においては、主にキツネと野ネズミに寄生しています。

- ①成虫は、キツネの腸に寄生して卵を産み、その卵が糞と一緒に排出されます。
- ②野ネズミが木の芽などと一緒にこの卵を食べると、野ネズミの体内で卵がかえって幼虫となり、肝臓に寄生します。
- ③この幼虫が寄生している野ネズミをキツネが食べると、キツネの腸の中で幼虫が成虫になります。

エキノкокクスは通常、キツネと野ネズミの「食べる」「食べられる」の関係の中で生きています。

また、犬もキツネ同様に野ネズミを食べると感染しますので、飼い犬の飼い方には注意が必要です。



6 感染予防

エキノкокクスが体内に入った直後は検査をしても感染がわからないので、まずは、予防が第一です。

エキノкокクスに感染しないよう次のことを心がけましょう。

- ①外から帰ったら必ず
手を洗うこと。



- ②キツネに餌付けをしたり、
触ったりしないこと。

- ③キツネが近寄らないよう、生ゴミ等は適正に
処理すること。

- ④飼い犬が野ネズミを食べないように、放し飼い
にしたり野原や公園で放さないようにする
こと。

- ⑤山菜や野生の果実等は十分に加熱もしくは
よく水洗いしてから食べること。

- ⑥沢水等のなまの水は飲まないこと。
飲む場合は煮沸すること。



犬を連れてきている方へ

●犬は野ネズミ（エゾヤチネズミ等）を食べ
て感染するので、キャンプ場・原野等では、
犬を放さないようにしましょう。

●犬が野ネズミを食べた可能性がある場合
には、動物病院で検査を受けましょう。
（犬がエキノкокクスに感染しても症状は
なく、薬で駆虫できます。）



エキノкокクスを道外に持ち出さないよう、
ご協力をお願いします。



エゾヤチネズミ
（体長10cm程度の小型のネズミです。）

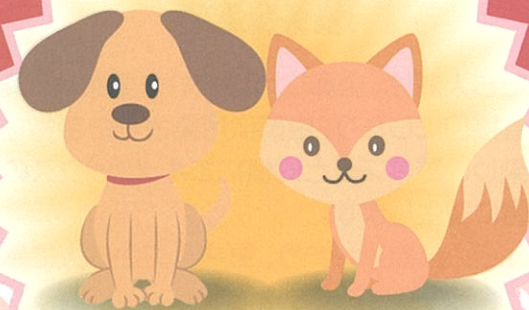


北海道

北海道にお越しの皆様へ

エキノкокクスを

知っていますか？



エキノкокクス症を予防するために、
正しい知識を身につけましょう

北海道保健福祉部

☎ 011-204-5262